ICT ニュース 2026/9 月号

今年は多くの地域で台風や豪雨による被害が発生しています。浸水した住宅や建物では細菌やカビが増殖しやすくなり、感染症や呼吸器の健康被害にも注意が必要です。さらに、8 月末からインフルエンザが過去 2 番目に早い流行入りとなりました。過去 1 番目に早い流行入りしたのが、新型インフルエンザ（H1N1）が世界的に流行した 2009 年であり、国内でも 5 月以降に集団感染が確認されるなど早い時期から流行がみられました。ワクチン接種がまだ始まっていない医療機関が多く、接種後に抗体が形成されるまでには約 2 週間かかりますので、日常の感染対策をしっかり行う必要があります。



●インフルエンザワクチンの効果



体内でつくられた免疫機能は、同じ抗原が再度侵入すると、その力がアップします。これを「ブースター効果」と言います。さまざまな感染症を防ぐワクチン接種は、このブースター効果を利用して免疫機能を強化するものです。効果は接種後 2 週間から約 5 ヵ月といわれています。但し、接種しても効果は 100%ではないのでかかる場合もありますが、重症化は防ぐことができます。特に高齢者や基礎疾患がある方は接種をおすすめします。

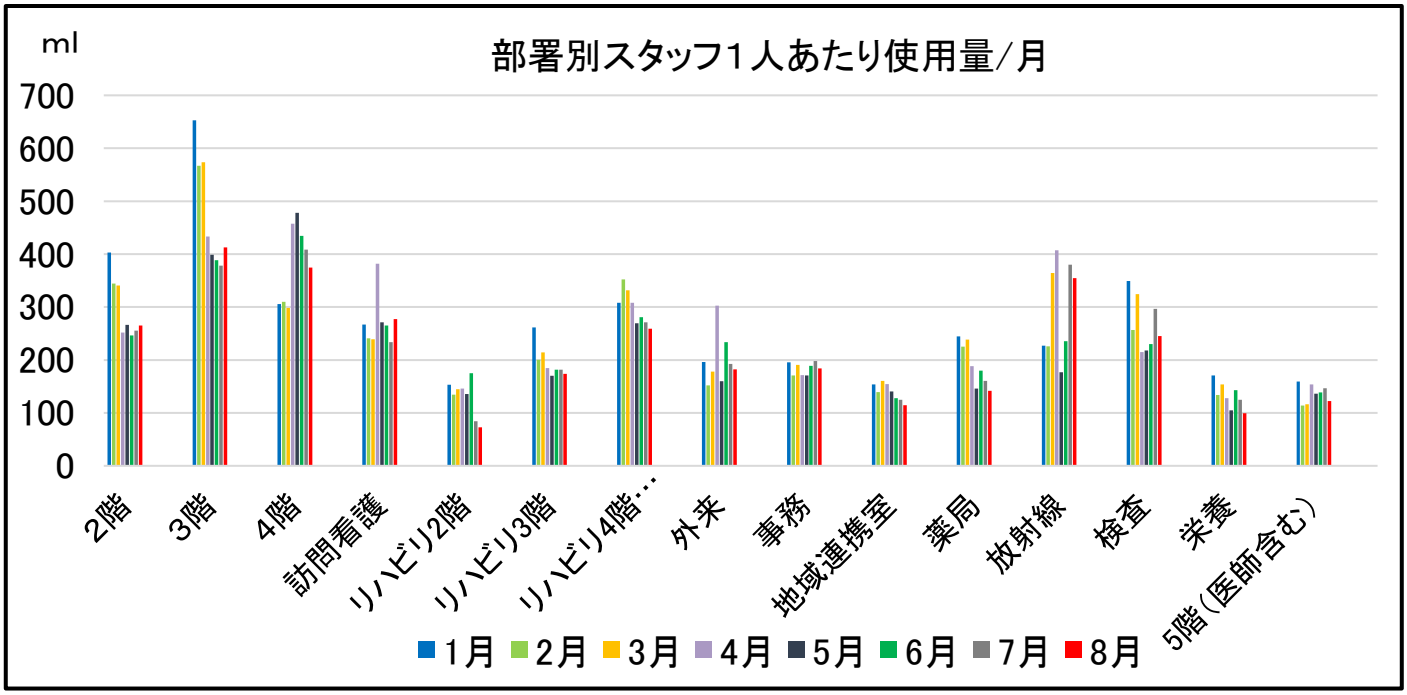
●水害後に注意したい感染症

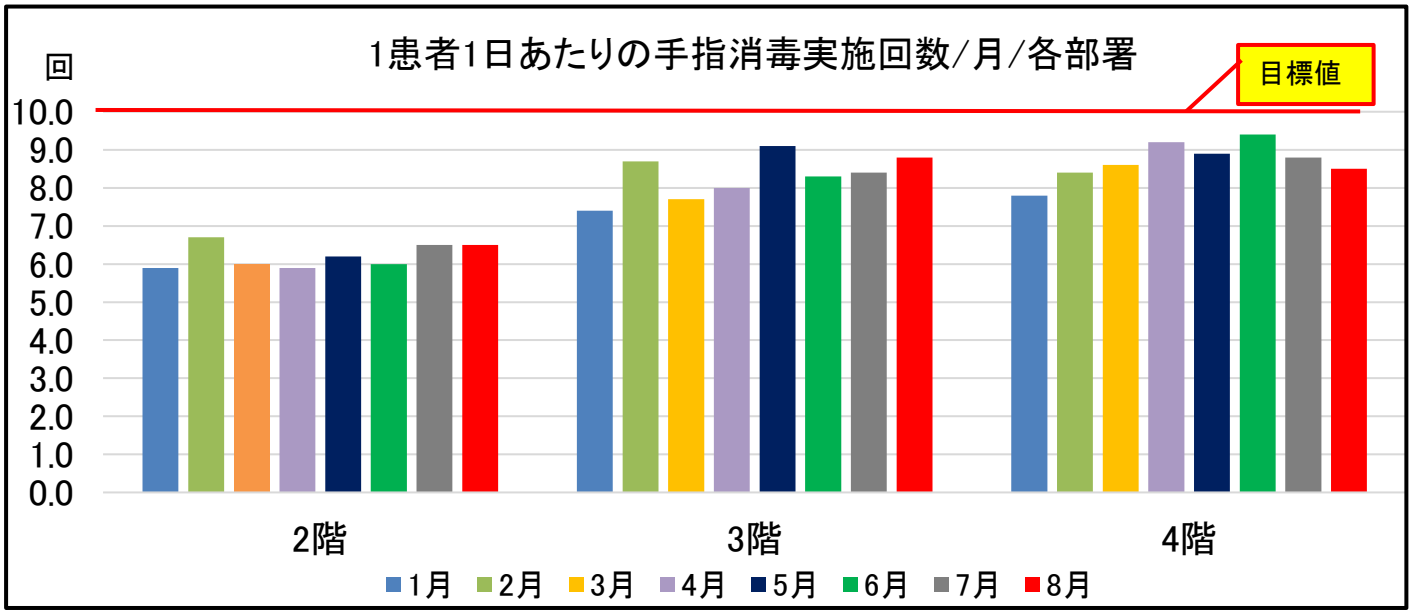
レジオネラ症：レジオネラ症は、レジオネラ属菌による細菌感染症で、主な病型には重症の肺炎を起こすレジオネラ肺炎と、数日で治ることが多い軽症のポンティアック熱があります。レジオネラ属菌は土壌、河川、湖沼などの自然環境に存在しますが、冷却塔、加湿器、循環式浴槽、給湯設備などの人工的に水を使う設備で衛生管理が不十分な場合に増殖し、菌を含む細かな水滴や霧状の飛沫（エアロゾル）を吸い込むことで感染します。
潜伏期間はおおむね 2～10 日で、発熱、咳、倦怠感、筋肉痛、胸痛、息苦しさ、下痢などがみられ、適切な治療がなされなかった場合には急速に症状が進行することがあり、命にかかわることもあります。

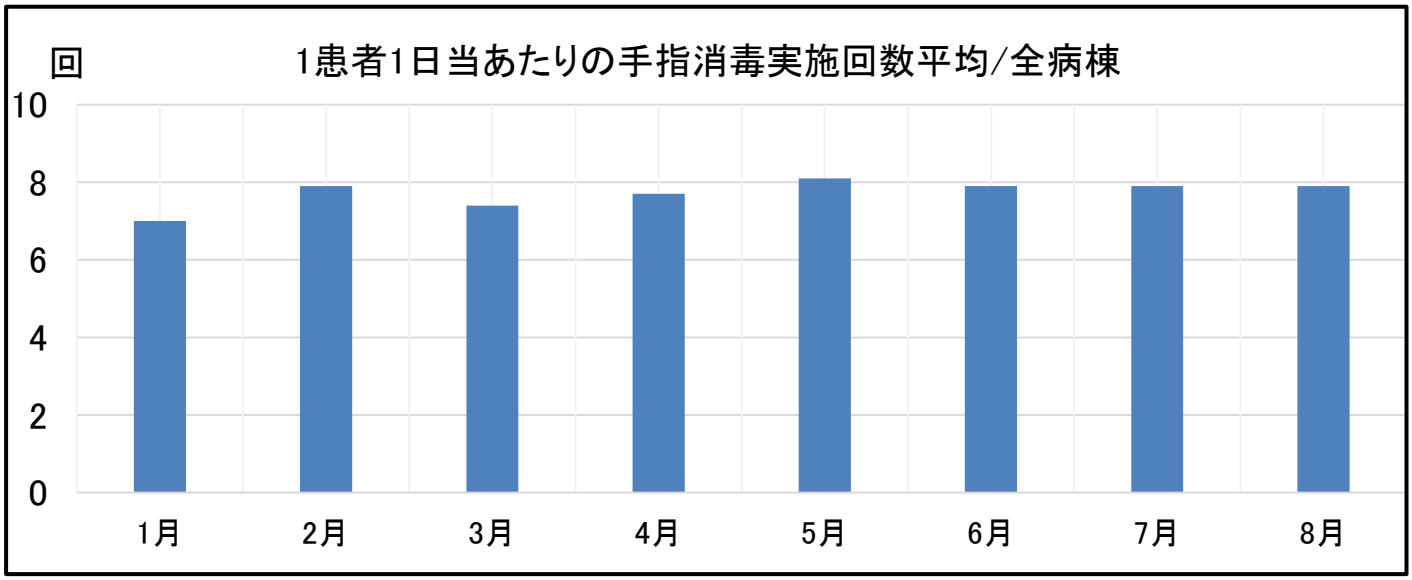
●カビによる健康被害

住宅内に生息するトリコスポロン属などの真菌（カビ）を繰り返して吸い込むことが関係します。古い木造住宅、風通しの悪い部屋、浴室、床下、畳、押し入れなどが問題になりやすいとされますが、長期間清掃していないエアコン内部も、湿気やほこりがたまりやすく、カビの温床になることがあります。
カビは、鼻炎や気管支喘息の悪化だけでなく、過敏性肺炎の原因になることがあります。過敏性肺炎は、細菌やウイルスが肺で増える感染症ではなく、カビ、細菌、鳥由来のたんぱく質などの微粒子を繰り返し吸い込むことで起こるアレルギー性・免疫性の肺の炎症です。発熱、咳、息切れ、倦怠感などがみられ、風邪や感染症と似ているため気づきにくいことがあります。原因となる環境から離れると症状が軽くなり、戻ると再び悪化する場合は、生活環境が関係している可能性があります。このような症状や経過がある場合は、夏型過敏性肺炎の可能性があるので、呼吸器内科などで相談しましょう。

★2026 年アルコール手指消毒剤使用量







★院内の感染症が落ち着いていたせいか全体的に使用量が増加しません。今後も引き続きタイミングよく手指衛生を心がけてください